

読者の欄

窓



向日市・西岡 真子
(主婦・47)

火曜日

幻想へと誘う

梅雨のホタル

下京区・田中 正一

(公務員・36)

六月に入っていよいよ梅雨の季節。もちろん田畑にとっては大切な雨ではあるけれど、蒸し暑くなってうっとうしい。そんな中、この時季しか見られないすてきな光景がある。それは、「ホタルの明かり」。

昼間の気温がどんどん上がっても、夕方はずっと涼しくなるこの時季、川辺はなんともいえない風が吹く。日が落ちて暗闇に包まれたすと、どこ

となく心を和ませる小さな「明かり」がぼつりぼつりとともりだす。子供のころは「ほう、ほう、ほたるこい」と歌いながら川に入って、蛇穴が光るの間違わないようにとびくびくしながら、点滅する「明かり」を追った。

大人のようになってからは毎年「明かり」を求めて川辺にたえずんでいる。忙しく働く現実の世界から、幻想の世界へと誘って、今でもあちこちでホタルを楽しむことができる。水辺のにおいと風、点滅しながら飛び交う姿、迷った「明かり」が人の衣服にとまったり、点滅の速度を楽しんで、雨上がりの「明かり」は澄んでいて、このうえもなく美しい。この光景は写真やビデオではどうやっても伝わらない。今年もこんな癒やしとなる「明かり」を求めたい。

今年もこんな癒やしとなる「明かり」を求めたい。